

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

H30.7.31 秋田県教育委員会

概 観

○平成19年度の調査開始以降、連続して良好な状況にある。

- ・各教科の平均正答率が、小学校で3ポイント以上、中学校で4ポイント以上、全国の平均正答率を上回っている。
- ・児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の多くの質問項目で、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。

各教科の良好な状況に加え、児童生徒及び学校に対する質問紙調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付け、豊かな人間性等が育まれている状況が表れている。このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にも示している本県の優れた教育環境が織りなしたものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものと捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力

○県教育委員会では、今回を含めた11回の調査結果により、これまでの施策・事業等の方向性や有効性について一定の評価をしている。特に、少人数学習推進事業、県独自の学習状況調査、各学校が実施している共同研究体制による授業研究等は、大きな効果を発揮していると考えている。

○今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただき、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

○調査結果を活用した学校の取組を支援するため、県教育委員会ではインターネット上で自己採点結果の集計・分析が可能なシステムを提供した。各学校では、自己採点等を通して課題を捉え、その改善に向けて取組を進めてきている。また、本調査を受けた児童生徒に対しては、個々に課題となっている学習内容を定着させることが大切である。今後は、提供された自校の結果を基に、各学校が成果と課題を明らかにし、改善に向けた方策を一層具体化して取り組むことになる。

○本調査の結果を有効に活用するために、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進めることにしている。

○国と県の学力調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを更に機能させていく。具体的には、全国学力・学習状況調査での課題を明確にし、県学習状況調査で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、「基礎的・基本的な知識・技能の活用」に関する力が把握できるような問題を出題し、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆概 要

- 本県の平均正答率は、小学校は全ての教科において全国平均を３ポイント以上、中学校は全ての教科において全国平均を４ポイント以上上回っており、良好な状況である。
- 小・中学校ともに、ほぼ全て（小：95.0%、中：94.9%）の問題において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 正答数分布は、小・中学校ともに、全ての教科において、全国に比べて正答数の多い層が厚くなっている。（p 3～5 参照）
- 無解答率は、小・中学校ともに、ほぼ全ての問題で全国平均を下回っている。
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

小学校6年生の平均正答率

()は全国との差

教 科	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	77 (+6)	80 (+5)	77 (+4)	76.0 (+6.0)	77.4 (+4.5)	71.7 (+9.0)	86.9 (+5.3)	89.3 (+6.0)	75.3 (+5.4)	74.4 (+9.0)	86.1 (+4.4)
国語B(活用)	61 (+6)	64 (+6)	64 (+6)	76.4 (+11.0)	67.3 (+11.8)	59.1 (+9.7)	63.0 (+7.4)	84.8 (+7.0)	60.4 (+9.9)	62.9 (+12.4)	69.0 (+7.0)
算数A(知識)	67 (+3)	84 (+5)	82 (+4)	81.2 (+6.0)	85.1 (+7.0)	82.8 (+5.6)	79.5 (+6.2)	83.2 (+9.0)	86.2 (+7.5)	80.7 (+8.5)	88.4 (+6.3)
算数B(活用)	57 (+5)	50 (+4)	52 (+5)	51.5 (+6.5)	66.2 (+8.0)	67.1 (+8.7)	64.0 (+5.1)	59.0 (+9.7)	63.7 (+8.9)	58.9 (+7.3)	68.6 (+5.0)
理 科	66 (+6)			66.7 (+5.9)			68.4 (+7.5)				

中学校3年生の平均正答率

()は全国との差

教 科	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
国語A(知識)	80 (+4)	82 (+5)	79 (+3)	80.8 (+5.0)	84.4 (+5.0)	81.9 (+5.5)	79.7 (+4.6)	79.8 (+4.7)	82.3 (+5.3)	78.6 (+5.0)	85.4 (+3.8)
国語B(活用)	66 (+5)	78 (+6)	72 (+5)	70.7 (+4.9)	55.8 (+4.8)	74.6 (+7.2)	70.3 (+7.0)	71.7 (+6.4)	81.8 (+7.3)	66.8 (+6.0)	77.0 (+5.0)
数学A(知識)	70 (+4)	68 (+3)	67 (+5)	68.4 (+4.0)	73.0 (+5.6)	68.9 (+5.2)	67.4 (+5.3)	70.8 (+6.2)	68.8 (+6.1)	70.1 (+7.0)	77.5 (+5.6)
数学B(活用)	51 (+4)	52 (+4)	48 (+4)	46.9 (+5.3)	65.5 (+5.7)	47.5 (+6.0)	56.7 (+7.4)	50.0 (+6.7)	63.4 (+6.5)	54.7 (+5.5)	65.3 (+4.7)
理 科	70 (+4)			59.6 (+6.6)			56.1 (+5.1)				

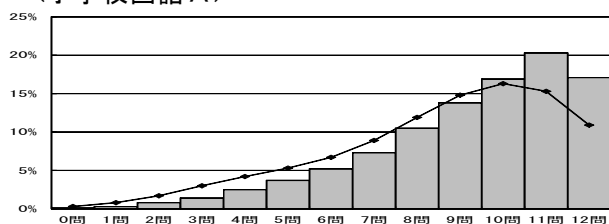
* 平成２２年度、平成２４年度の平均正答率については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の９５％信頼区間」が公表されており、その区間の中央値を示しています。

* 都道府県別の平均正答率は、文部科学省から、平成２７年度以前は小数第１位までの小数で、平成２８年度以降は整数で公表されています。

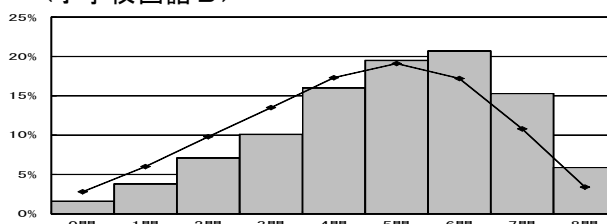
各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

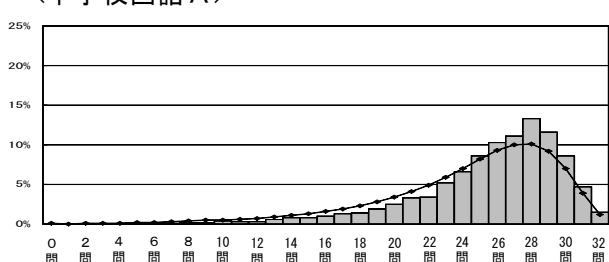
＜小学校国語 A＞



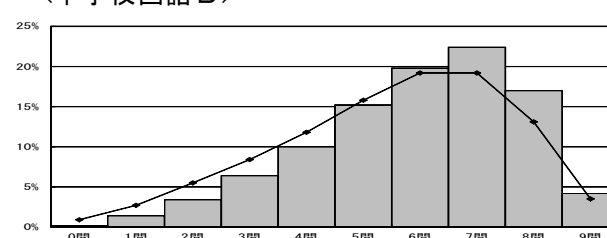
＜小学校国語 B＞



＜中学校国語 A＞



＜中学校国語 B＞



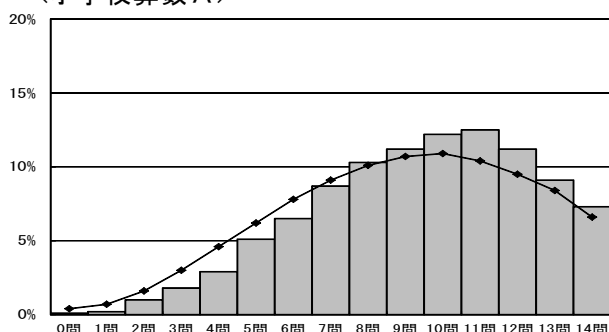
- 平均正答率は、小学校で6ポイント以上、中学校で4ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、A問題の「言語についての知識・理解・技能」、B問題の「書く能力」「読む能力」において7ポイント以上、全国平均を上回っている。中学校では、A問題、B問題とも、「話す・聞く能力」において5ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、語句の役割や語句相互の関係に注意して文を正しく書くことや、目的に応じて複数の資料から適切な内容を取り上げ、それらを関係付けて書くことに課題がある。
- 中学校では、慣用句の意味や用法を正しく捉え、文脈に即して適切に使うことや、目的に応じて文章を読み、内容を的確に捉えて情報を整理し書くことに課題がある。

●課題となる問題

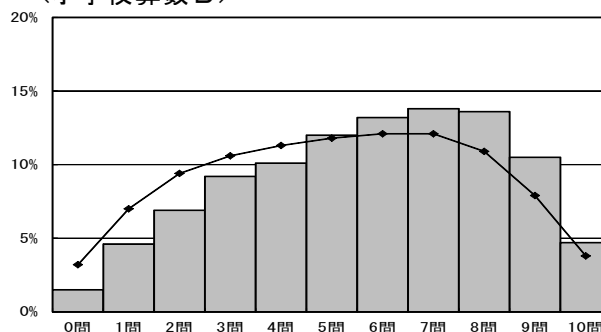
	問題番号	平均正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	A 5	49.7	35.5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と-----部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す。	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。
	B 1 三	41.3	33.8	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、□を書く。	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。
	B 2 二	19.1	13.5	【おすすめする文章】の□に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く。	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。
中学校	A 8 三エ	26.5	29.2	適切な語句を選択する。 (彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
	A 8 四 2	21.2	22.3	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く。	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。
	B 1 三	13.6	13.3	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

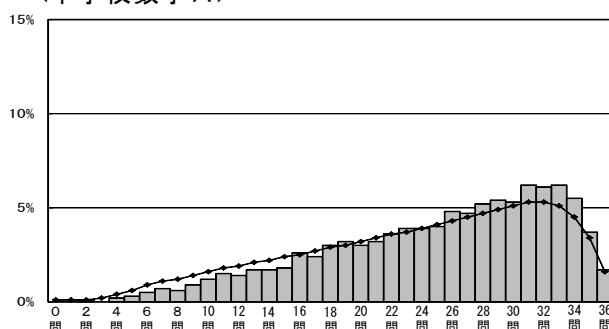
＜小学校算数 A＞



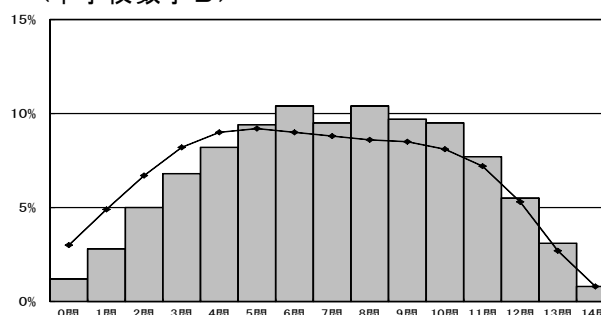
＜小学校算数 B＞



＜中学校数学 A＞



＜中学校数学 B＞



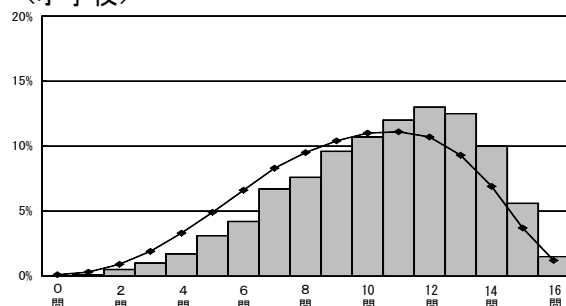
- 平均正答率は、小学校で3ポイント以上、中学校で4ポイント以上、全国平均を上回っている。
- B問題について、小学校では「図形」の領域において全国平均を7ポイント以上、中学校では「関数」の領域において全国平均を4ポイント以上上回っている。
- 小学校では、円周率の意味の理解について課題が見られる。また、日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることに課題が見られる。
- 中学校では、証明の必要性和意味の理解について課題が見られる。また、与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理したり、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られる。

●課題となる問題

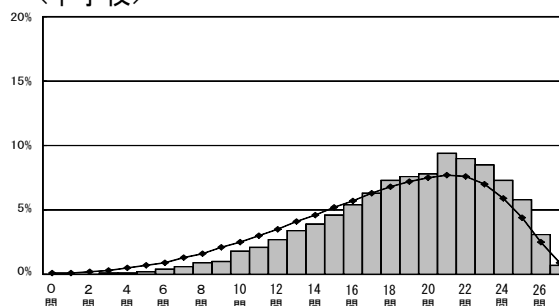
	問題番号	平均正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	A 7 (1)	42.7	41.6	円周率を求める式として正しいものを選ぶ。	円周率の意味について理解している。
	B 3 (1)	27.5	20.7	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く。	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる。
	B 3 (2)	28.1	23.9	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ。	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。
中学校	A 8	43.2	45.5	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。	証明の必要性和意味を理解している。
	B 5 (1)	16.3	16.0	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く。	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。
	B 5 (2)	13.2	10.4	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる。

【理科】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



問題の枠組みごとの集計結果

	小学校		中学校	
	平均正答率	全国との差	平均正答率	全国との差
主として「知識」に関する問題	84.0	+6.0	72.0	+4.1
主として「活用」に関する問題	62.0	+5.8	70.0	+5.1

- 「知識」に関する問題と「活用」に関する問題における平均正答率は、いずれも小学校では5ポイント以上、中学校では4ポイント以上全国平均を上回っている。
- 小学校では「エネルギー」「生命」「地球」の内容において、中学校では「化学的領域」「生物学的領域」の内容において、それぞれ5ポイント以上全国平均を上回っている。
- 小学校では、実験結果を基に分析して考察し表現することや、身に付けた知識を別の事物・現象に適用することに課題がある。
- 中学校では、自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することに課題がある。

●課題となる問題

	問題番号	平均正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	2(3)	25.1	20.1	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く。	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。
	3(4)	43.9	41.9	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ。	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる。
	4(3)	41.1	42.7	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ。	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。
中学校	2(2) 3.0%の濃度	49.9	46.9	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質の量は何に関係しているのかを科学的に探究する濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる。	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる。
	3(1)	40.1	37.5	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる。	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる。
	9(2)	17.4	19.4	部屋に見立てた容器に植物を入れると湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる。	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる。

児童生徒質問紙調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）

【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	96.1 (86.6)	+ 1.6 (+ 1.8)	95.0 (84.8)	+ 3.1 (+ 5.1)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	92.5 (65.2)	+ 3.7 (+ 5.3)	92.9 (63.0)	+ 2.6 (+ 7.1)

【学習習慣】

○平日・休日にかかわらず、家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
家で、学校の宿題をしていますか。	98.0 (89.5)	+ 0.9 (+ 1.6)	96.3 (79.4)	+ 4.7 (+10.9)
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。	85.3 (49.8)	+17.7 (+19.1)	73.2 (29.8)	+21.1 (+13.2)
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。〔新規〕	91.5 (62.4)	+28.9 (+34.7)	84.8 (38.5)	+29.6 (+20.3)
放課後に何をして過ごすことが多いですか。	(家で勉強や読書をしている)			
	80.2	+16.1	59.2	+17.0
週末に何をして過ごすことが多いですか。〔新規〕	(家で勉強や読書をしている)			
	78.5	+20.4	63.2	+22.2

【豊かな人間性等】

○自己肯定感や他の人を思いやる心が醸成されている様子がうかがえる。
○地域や社会の事象への関心やそれらに関わろうとする意欲があることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	91.1 (52.6)	+ 7.1 (+11.4)	87.0 (41.1)	+ 8.2 (+ 7.4)
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	97.6 (83.9)	+ 2.4 (+ 9.7)	97.8 (81.9)	+ 2.9 (+11.2)
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	76.9 (37.0)	+13.1 (+10.2)	74.6 (28.7)	+15.3 (+ 8.7)
地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	67.4 (27.3)	+17.5 (+10.0)	57.5 (18.2)	+18.8 (+ 7.6)
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。	(ある)		(ある)	
	51.5	+15.4	70.2	+18.4

【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒自らが考え、自分の考えを相手に伝える、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりするなど、児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」を意識して取り組むことができている。
- 授業で学んだことをほかの学習や日常生活などの様々な場面で生かす機会を通して、児童生徒が身に付けた知識・技能等を活用して考えることができている。
- 算数・数学の授業では公式等の根拠を明らかにしたり、理科の授業では自分の予想を基に観察や実験の計画をたて、結果を基に考察したりするなど、児童生徒が思考・判断・表現する意識をもって学習に取り組むことができている。
- 地域のことを調べたり、地域の人と関わったりして学ぶ場が設定されている。

※数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「当てはまる」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前学年までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。[新規]	88.1 (43.5)	+11.4 (+14.4)	85.8 (37.8)	+12.0 (+11.5)
前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。	73.7 (31.4)	+12.7 (+7.9)	70.1 (24.6)	+16.3 (+8.0)
友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	86.9 (46.5)	+9.2 (+11.8)	88.6 (51.3)	+12.3 (+18.9)
算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	80.8 (43.9)	+16.4 (+15.4)	55.5 (19.9)	+16.8 (+7.9)
算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠（わけ）を理解するようにしていますか。	89.7 (55.3)	+9.3 (+11.6)	83.7 (42.0)	+13.3 (+11.1)
理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	80.3 (46.9)	+15.6 (+15.8)	63.6 (26.5)	+18.2 (+9.7)
理科の授業では、自分の予想を基に観察や実験の計画をたてていますか。	88.1 (53.6)	+12.9 (+16.4)	79.4 (35.7)	+20.9 (+16.3)
理科の授業で、観察や実験の結果を基に考察していますか。	92.2 (60.5)	+10.4 (+16.9)	88.9 (51.1)	+16.6 (+19.4)
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	84.3 (45.5)	+16.2 (+16.1)	78.4 (34.7)	+19.4 (+14.0)
前学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。	88.8 (60.2)	+14.4 (+20.1)	88.7 (57.2)	+20.0 (+25.6)

学校質問紙調査の結果

◆概 要

- 児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組むことができるよう、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っている。
- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題解決に活用できるような機会を設定している。
- 算数・数学及び理科の授業において、実生活との関連を意識した指導がなされている。
- 理科の指導では、理科室で観察や実験をする授業がよく行われており、児童生徒の好奇心や意欲を喚起するような工夫がなされている。
- ふるさと教育の充実に向けたキャリア教育の取組を通して、児童生徒が自分の将来の姿や地域・社会の事物、人に目を向け考える機会を意図的に設定している。
- 家庭学習の取り組み方等について、学校全体で組織的に指導している。
- 授業改善に向けた実践的な研修について、小・中学校が連携を図っている。

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	96.4 (35.5)	+ 3.4 (+ 8.7)	97.4 (38.8)	+ 4.8 (+12.7)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	95.0 (24.9)	+ 5.3 (+ 2.4)	95.7 (21.6)	+12.1 (+ 6.0)
算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をしましたか。	80.2 (9.1)	+ 2.2 (－ 2.1)	85.4 (20.7)	+13.3 (+10.3)
理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をしましたか。	90.8 (22.8)	+ 5.1 (+ 2.9)	98.2 (42.2)	+ 7.5 (+13.3)
理科の授業において、前年度に、理科室で児童生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。	(週1回以上) 82.2	+21.2	(週1回以上) 93.1	+27.6
理科の授業において、前年度に、児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか。	98.5 (45.2)	+ 2.4 (+ 8.6)	100.0 (51.7)	+ 2.3 (+ 7.4)
前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか。	94.4 (47.7)	+ 8.2 (+14.5)	89.7 (39.7)	+ 9.9 (+11.8)
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。	94.5 (37.6)	+11.2 (+14.6)	100.0 (55.2)	+ 1.4 (+ 4.1)
前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。	97.9 (69.0)	+ 6.3 (+23.4)	96.5 (61.2)	+ 9.4 (+23.7)
前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。	98.5 (58.9)	+ 5.2 (+18.5)	98.3 (52.6)	+ 8.1 (+20.6)
前年度までに、近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	79.2 (32.0)	+ 9.7 (+ 6.9)	85.3 (37.9)	+ 8.8 (+ 4.1)

全国学力・学習状況調査結果の活用

◆概 要

- 学校全体で教育活動の改善・充実に向けて取り組むために、ほとんどの学校が平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、活用している。
- ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、自校の検証改善サイクルの機能を効果的に生かしている。
- 全国学力・学習状況調査の結果分析から得られた成果や課題を、近隣の小・中学校と共有している学校の割合が全国に比べて高い。

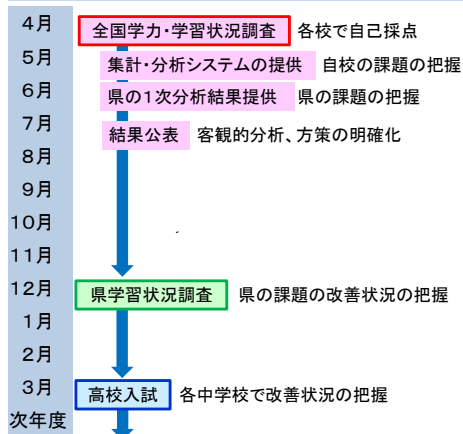
◎学校質問紙調査結果より

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.0 (59.4)	+ 1.4 (+16.7)	98.3 (50.0)	+ 2.2 (+15.7)
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む。）	97.0 (37.6)	+ 4.7 (+ 1.9)	90.5 (34.5)	+ 2.0 (+ 1.4)
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。	98.5 (54.8)	+ 4.1 (+18.9)	97.4 (56.9)	+ 5.6 (+27.3)
平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有しましたか。	73.1 (19.3)	+ 9.8 (+ 2.2)	75.0 (22.4)	+11.0 (+ 3.3)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援します。

全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、高校入試を一体として捉えた検証改善サイクル



県教育委員会の取組

☆学力向上関連事業等

◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業〔少人数学級、ティーム・ティーチング等による少人数授業〕
(H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条 (H20～)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」(H27～)
- 小学校外国語活動教員研修事業 (H21～29)
※小学校外国語教育集中実践セミナー (H30～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
 - (1) 学習状況調査事業
 - (2) あきたの教育力充実事業
 - ① 学力向上支援事業
 - ・教科指導C Tの活用による指導力向上プロジェクト
 - ・学校訪問指導
 - ・学力向上支援W e b活用
 - ・理数才能育成プロジェクト ―科学の甲子園ジュニア秋田県大会―
 - ② あきたの教育力発信事業
 - ・検証改善委員会による全国学力・学習状況調査の分析・提言
 - ・学力向上フォーラムの開催 (平成30年11月9日、10日 大館市)
 - ③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、31)
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育市町村担当者等連絡協議会 (県内の学識経験者、市町村教育委員会担当者等で構成)
 - ・キャリア教育実践研究協議会
- A K I T A 英語コミュニケーション能力強化事業
 - ・小・中・高の一貫した英語教育の推進により、英語によるコミュニケーション能力の強化を図るとともに、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉
- 三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなのでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）において、全国トップレベルを維持している本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目されるところとなりました。

第2期あきたの教育振興に関する基本計画を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問紙調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。